

# 求められる魚沼米

## 消費者目線で生産を

3月26日(土)、JA越後おぢやは、グリーンパークにおいて「求められる魚沼米」生産者集会を開催しました。生産者やJA役職員ら280人が参加。

消費者より求められる魚沼米生産の実現のため、品質向上・安定生産・水田フル活用をめざし、意思結集を図りました。

JA越後おぢやの谷口熊一組合長は、米の需要動向に的確に対応しながら、国の支援策を最大限活用して、農家の皆様の所得維持を図るため「行政と生産者団体等が協力して需給調整の推進や経営所得安定対策等を行う事が重要」と述べ、合

わせて、平成28年度は、「JA自己改革」の基本目標である「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を踏まえて取り組み、特に、米穀関係では、小千谷市からの協力により片貝・第一カントリーに色彩選別機を設置し、おぢや米の「ブランド力向上」を図るので、さらなる「高品質・良食味米のおぢや米」の生産と「水田をフル活用した地域農業振興」、「越後おぢやブランドの確立」により、一層ご尽力・ご協力いただきたいとあいさつしました。

3名の方が講演を行い、全農パールライス株式会社

求められる魚沼米』生



▲消費者より求められる魚沼米へ結集を呼びかける谷口組合長



▲求められる魚沼米について講演する宮崎部長



▲品質向上に向けて講演する門倉主査



▲魚沼米の販売について講演する風間次長



▲講演を聞く参加者



▲「新之助」を試食する参加者



▲新品種「新之助」

西日本事業本部営業部の宮崎章部長が「求められる魚沼米について」と題して講演。米穀の販売情勢が変化していく中、求められる魚沼米となるために水田の維持（将来の世代に田んぼを残すこと）、系統に集荷を結集、原料米の生産強化、生産履歴の確保と環境に配慮した安全な農作物作り、産地発信の食育などが必要であり協力をお願いしたいと述べました。

長岡地域振興局農林振興部普及課小千谷分室の門倉綾子主査普及指導員は「平成28年度産米の品質向上に向けて」と題して講演。平成28年度の最重要技術対策として深耕・適正生育量の確保・生育診断に基づく穂肥施用・後期水管理・斑点米発生防止が挙げられるが、小千谷では「さらに稲を倒伏させないことに重点を置く」と未熟米を防ぎ品質を向上させることができる」と述べました。

全国農業協同組合連合会

新潟県本部米穀部風間秀樹次長は「情勢報告『魚沼米』の販売について」と題し講演を行い今後の魚沼米の需給見通しについて、平成27年度産米の品質・販売状況についてなどを報告し、平成28年度産米の重点方針としてマーケットイン（消費者視点）に基づく生産・集荷・販売の実践・需要に応じた高品質米の安定生産などを上げ、産地内の無用な販売競争を回避し全国の消費者・実需者への通年安定供給のためJAへの出荷結集を呼び掛けました。

当日は閉会后、水稻新品種「新之助」の試食が用意されました。試食された生産者の方からは「コシヒカリに比べて甘味が強く、ほぐれやすい」「炊立ては美味しいが、冷えた時の味を確かめてみたい」など新品種に期待感を持っていました。